

○ 教育を取り巻く状況と初等部教育の展望

10年後、そして20年後、日本や世界はどうなっているのでしょうか。人間に代わってAIが社会進出を続ける現代社会では、求められる能力が大きく変わっていることは確かだと言えます。

これまでは教えられたことを覚え、覚えた知識の量や与えられた問題の正解に最短でたどり着く力が大切とされ、その力に長けた人間が「優秀」だと言われてきました。しかし、新しい時代に必要となる力は、世界中にあふれる情報の中で何が必要で何が大切なのかを選別・判断し、自分の考えを加えて再構成し、それを明確に表現する力です。また、異なる文化の人と接する能力、自ら課題を発見する能力、その解決に向けて主体的に行動できる能力、生涯にわたって学び続ける学習力など多様な力が必要となってきます。「言われた事を言われた通り行うことのできる力」ではなく、「何をしたいかどうすれば良いのか自ら発見し考え行動に移すことのできる力」がお子さまの未来を切り開くうえで大切だと言えます。

文部科学省も「主体的な深い学び」を重視し、今年度から施行されている新学習指導要領でも学習の基本として位置づけています。本校では、これら「21世紀型スキル」と呼ばれる資質や能力、受け身ではなく、子どもたちが自ら考え、その考えを共有する力、学びを楽しみ深めようとする力をずっと教育の中心に位置づけてきました。初等部の学校生活や学習の主体・主役はいつでも子どもたち一人ひとりにあります。「感じ・考え・学習する」という学びのサイクル、基礎・基本を大切に、「一人ひとりが活かされ、一人ひとりを活かす」という初等部ならではの教育をこれからも実践していきます。

○ キリスト教信仰に基づく教育

青山学院は、キリスト教信仰に基づいた一貫教育を行っている学校です。幼稚園から、初等部、中等部、高等部、大学、大学院までの総合学園として今年で創立146年目を迎えました。時代の変化に合わせて学校組織や教育内容は変わってきましたが、青山学院の教育の原点であるキリスト教信仰に基づいた教育は今も変わることはありません。

その中で本校が一番大切にしていることは「礼拝」です。子どもたちも毎朝、礼拝から一日をスタートします。もちろん、今回の休校中の「オンライン学習」でも毎朝、礼拝を配信してきました。一年間を通して学校生活全体が、キリスト教信仰に基づいた生活となっています。

その中でも現在は、青山学院全体が創立150年に向けて「サーバント・リーダーの育成」という明確なビジョンを掲げて歩んでいます。「サーバント・リーダー」とは、指示を出して周囲を引っ張るリーダー像ではなく、最後の晩餐の前にイエス・キリストが弟子たちの足を洗ったように、人に仕えるリーダー、縁の下の力持ちとしての役割も持ったリーダー像です。それはまさに青山学院のスクール・モットーである「地の塩・世の光」を体現する人物だと言えます。

○ 初等部の英語教育

新しい学習指導要領改定の大きなポイントの一つに、5・6年生の教科としての「英語科」の設置があります。以前から青山学院では英語教育に力を入れており、青山学院独自の英語教材「SEED BOOK」を使用して初等部の1年生から高等部の3年生までの12年間を一貫して行う英語教育として「4-4-4制」を実施しています。

現在本校では、1年生から週2時間、英語の授業を実施しています。初等部の英語教育は、「習っ

た英語をどう使うか」、つまり「英語という道具を使って何をするか」に焦点を当てています。希望者は青山学院大学への留学生と英語で交流するチャットルームに参加したり、夏にオーストラリアやイギリスで行われるホームステイプログラムに参加したりと自らの興味関心によって賜物を磨くチャンスが与えられています。

しかしながら、これからの初等部教育を展望したとき、創立83年の伝統の継承を大切にしながらもそれに甘んじることがあってはいけません。ICT機器を活用した授業や環境整備、外国人スタッフによるチャットルームなどの充実、海外でのサマープログラムの実施、オーストラリアホームステイプログラムの充実と発展、インターナショナルスクールとの交流など、グローバル時代にふさわしい実践を今後とも行っていく所存です。(今年度は対外行事を中止しています)。

○ 初等部のICT活用

子どもたちが楽しく、わかりやすく学ぶためのツール、子どもたちをわくわくさせるツールとしてPCはもちろん、電子黒板・電子教科書・タブレットPCなどを発達段階に応じて各学年に導入しています。そして、授業や家庭学習など様々な場面で活用を進め、その有効性の実証実験をおこなってきました。「タブレットを導入して授業で使うことが重要だ」と考えている学校もあると聞きますが、本校ではあくまで「タブレットを導入することで新たにできる学びにはどんな形があるか」「タブレットを使わない方が良い学びもあるのではないか」とタブレット使用の是非も含め考えながら新たな学びを構築しています。今回のコロナ禍による学校休校中も、保護者のご協力をいただき、いち早く独自の「オンライン学習」を開始しました。

また、大学教員等専門家のご協力のもと、ドローンやロボットを使ったプログラミング学習もス

スタートして5年目になります。これらタブレットPCを含めたICT活用については、これからも他校の先駆けとなって推進してまいります。

○ 初等部教育の根幹

本校は、他人との比較や競争をする能力主義の学校でも、知的に高い児童を集めて英才教育を行う学校でもありません。創立以来、子ども自身の内面に自ら「感じ・考え・行動する」サイクルを生み出し、主体的な学校生活を送る実践を行ってきました。「教える・教え込む」教育ではなく「自ら学び体得する」ことを重視し、本物に触れる様々な経験、体験を通して感じ、物事を深く考え、思いやりのある人間関係を築きながら成長していくこと。そしてキリスト教学校として、神様から与えられた命を人間らしく生きる人格教育を大切に、「人を育てる」ことを教育の柱としている学校です。このような人格教育は、心が素直で柔らかな子どもの時にこそ必要なものだと考えています。本校では「画一的な横並び教育」ではなく、また知識を競い一番になるための「Number One 教育」でもない、一人ひとりの神様からいただいた賜物を活かした「Only One の教育」を行っています。Only One の教育には時間と根気、そして愛が大切です。たくさんの時間の中で愛ある教育を受けたOnly One の中からさまざまな分野での Number One が生まれ、各分野で活躍をしてくれています。

○ おわりに

青山学院初等部は、キリスト教信仰に基づく建学の精神を根底におき、神さまからの賜物を活かすことを大切に、これから生き抜く子どもを育てる教育の場です。子どもたちにとって人生でたった一度きりの小学生時代、このかけがえのない素晴らしい時にどのような教育を受けるのか。

人格形成にとってきわめて大切なこの時期に持った生き方の核となる価値観は、その後の子どもたちの人生の羅針盤となるでしょう。

最後になりましたが、初等部の伝統の中でも特に「5つのおやくそく」を大切にしており、繰り返し子どもたちに語りかけています。

- ・ 親切にします
- ・ 正直にします
- ・ 礼儀正しくします
- ・ よく考えてします
- ・ 自分のことは自分でします

この「5つのおやくそく」の重要なことは、「親切にきなさい」ではなく「親切にします」という言葉で伝わっているということです。誰かから言われたことをするのではなく、自らが発信する主体的能動的な約束であることに価値があると考えています。

青山学院初等部の教育の趣旨をご理解いただき、お子さまの学校選びの選択肢の一つとして加えて頂ければ幸いです。

2020年6月
青山学院初等部 部長
中村 貞雄